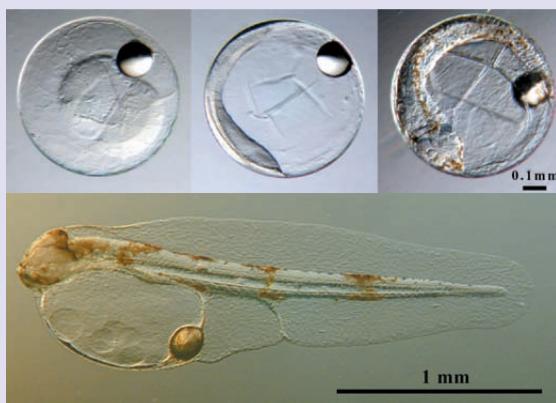


実験魚を育てる(2)

(ご自由にお持ちください)

海生研では、各種の実験にいつでも対応できるように、生態の異なる海水魚の親魚飼育や種苗生産を行っています。通常、海水魚の産卵は1年の特定時期に限られるため、卵や仔稚魚を用いた実験はその時期にしか実施できません。海生研では、必要な時期に受精卵が得られるように、親魚の飼育環境について様々な視点から検討しています。この結果、夏産卵のシロギスでは1年中いつでも受精卵を得ることが可能となりました。



シロギスの受精卵（左から2細胞期、胚体出現期、孵化直前）と孵化仔魚（平成15年12月12日、実証試験場で産卵）

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技术の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第21号

平成16年10月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国ビル5階 ☎ (03) 5210-5961
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.21

??? 魚のことわざ ???



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

〈その20〉

——サバ——

海とその生物にまつわる諺や格言についてお話ししましょう。

今回のテーマは鯖(サバ=スズキ目=サバ科)です。サバの語源は「小歯」。魚体に似合わず歯が小さいことから命名されたといわれる。

主に日本周辺に分布し、大群をなして沿岸表層を回遊する魚で、年間30万トンほどが漁獲されている。刺身、しめさば、味噌煮、塩焼きなど嗜好にあった食べ方があります。



「鯖はグイグイ鰯はモゾモゾ」

普通、アジは底、サバはその上にいるが、混棲していることもあり、初心のうちにはどちらが食ったものか分からない。サバのつもりで強く合わせるとアジの口が切れて逃げられてしまい、アジかと思って小さく弱く合わせるとサバにハリが刺さらず逃げられてしまう。その失敗がないように、両者の魚信(アタリ)の違いを一言で表した言葉。釣りの醍醐味は「合わせ」にある。



「鯖の生き腐れ」

サバは水から揚げると直ぐに死に、死後硬直も早く表れる。それに体内酵素の働きが他の魚より強いので、自己消化・腐敗が進みやすい。従って、外見は新鮮そうに見えても、食中毒を起こしがち。鮮度には気を付けよ、の教え。



「鯖を読む」

物を数えるとき、自分の都合のよいように数を誤魔化すこと。昔、魚屋が漁師から魚を買い取るとき、船の魚槽から一々その数を数えながら籠に入れた。その際、狡い魚屋は口よりも手の方が速く、魚の数を誤魔化したという。別にサバに限った訳ではないが「鯖の生き腐れ」といわれるところから、特に急いで数えたためか、サバが代表された。千葉県・勝浦港が発祥という。転じて出鱈目、いい加減などの意にも使われる。